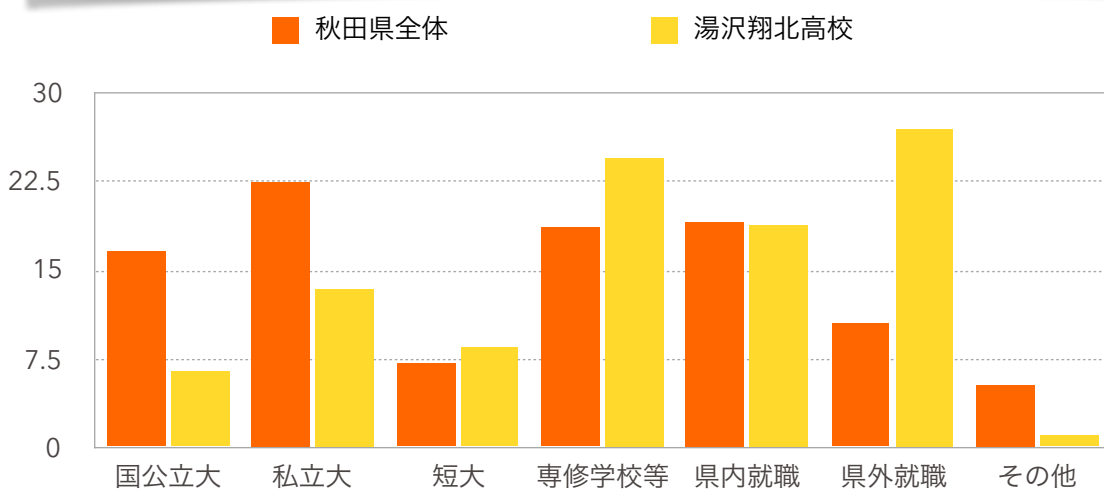


歩 -AYUMI-

一歩一歩進む 少しずつ目標に近づく

構成率	進学				進学計	就職		就職計	その他
	国公立大学	私立大学	短期大学	専修学校等		県内	県外		
秋田県全体	16.6%	22.4%	7.1%	18.7%	64.8%	19.1%	10.6%	29.7%	5.4%
湯沢翔北高校	6.5%	13.5%	8.6%	24.4%	53.0%	18.9%	27.0%	45.9%	1.1%
差	-10.1	-8.9	1.5	5.7	-11.8	-0.2	16.4	16.2	-4.3



出典: 美の国あきたネット (<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/928>)

「秋田県高等学校卒業者の進路状況調査」(秋田県) (<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/928>)を加工して作成

平成31年3月秋田県高等学校卒業者の進路状況

本校の状況との比較

この3月に秋田県の高등학교を卒業した人の進路状況が6月4日(火)に県から発表されました。上記はその構成率の表とグラフです。県全体では進学した人が64.8%、就職した人が29.7%となり、3人に2人は進学をしています。

本校と比較してみると、本校は進学と就職が約1:1の割合となっており、大学進学者の割合が低く、県外就職者の割合がかなり高くなっています。

現在は求人状況が良好なので就職を選ぶことも一つの選択ではありますが、高校卒業後の進路選択はその後の生き方にかかわる大変重要な選択です。一時の情勢だけではなく社会全体の流れも考慮しながら、自分に最適な選択をしてほしいと思います。

1年生へ

高校初の考査の成績は？

高校初の考査が終わり、中学校の試験との違いも感じたことだと思います。成績には満足しているでしょうか。期末試験は7月4日から。早めの準備がカギです。

2年生へ

中間考査の反省を

中間考査の成績はどうだったでしょうか。科目によっては赤点が多い成績となったようです。中間考査の反省をして、期末考査の準備を始めてください。

3年生へ

受験モードへの切り替えを

部活動が6月で一区切りとなった人も多いと思います。期末考査後には重要な1学期の成績も出されます。進路達成のための試験に向けて、準備開始の時です。

教育実習生 がんばってます



6月3日(月)から2週間の予定で、本校卒業生で現在大学4年生の菊地さんが教育実習を行っております。将来は商業の先生になることを目指しており、笑顔絶やさずに毎日頑張っています。

菊地さんから生徒の皆さんへのメッセージです。

「私は翔北高校で商業を学び、多くの検定や大会などを通じて将来の夢を見つけました。皆さんにも日々の学びを生かし、様々なことに挑戦してやりたいことや夢を見つけてほしいです。」



AO入試と推薦入試はどのように行われるのか

高校時代のさまざまな取り組みも大きく評価

専修学校の中にはまもなくAO入試のエントリー開始となっている学校もあります。そこで、AO入試やそれに似ている推薦入試はどのように行われるのかを確認しておきます。

AO入試のAOとは「Admissions Office」のことで、日本語では入試室、入試センターといった意味になります。志望理由書を中心とした書類や面接等により、受験生が自分の学校で学ぶのにふさわしいか否かを学校が判定をして合否を決める入試のことです。AO入試では高校に届け出た上で書類を準備して出願し、受験する学校で面接を受けたり小論文等を書いたりするのが一般的です。

推薦入試も提出された書類や面接、口頭試問等で合否が判定されるのはAO入試と同じですが、大きな違いは、推薦入試では高等学校長の推薦が必要であるということです。学力や人物に関して、受験生が相手先の学校で学ぶのに適していると学校長が推薦しますので、高校での生活や学習をしっかりと行なっていることが必要です。高校と先方の学校との信頼関係で成り立っている入試であるとも言えますので、入学後もしっかりと勉学に励むことが期待されます。

どちらの入試でも重視されるのが高校時代の取組みと志望動機です。高校の教科の成績だけでなく、部活動の活動状況やボランティア活動、生徒会活動など教科学習以外の面も丁寧に審査されます。また、「なぜこの学校で勉強しようとしているのか。入学後に何をしようとしているのか。」が書類や面接等でしっかりと確認されます。



また、これらの入試では「面接」が一般的には必須であることにも留意する必要があります。過去の事例を見ると、面接によって合否が分かれたケースがあります。面接の対策はしたものの当日はひどく緊張してしまい、さらに想定していなかった質問をされてしまって、実際にはほとんど話すことができなかつたために不合格になってしまったという先輩がいました。人前できちんと話すことや自分の長所をしっかりとアピールできる能力も必要とされます。

高校時代に勉強以外にもいろいろなことに取り組み、進学先では具体的に何を勉強して将来はどんなことをするのがはっきりしていて、その上それらをしっかりとアピールすることができる人には挑戦してみる価値のある入試がAO入試や推薦入試です。

英語重視の流れ

6月7日（金）、大学入試センターは現2年生が受験する大学入学共通テストの配点や問題作成方針を公表しました。まだまだ見えない部分もある新しい入試制度ですが、少しずつ情報が伝わってきています。

その中で注目すべき点の一つは英語の配点です。現行のセンター試験では筆記200点、リスニング50点の計250点ですが、共通テストではリーディングとリスニングを各100点として計200点に変更されます。リスニングのウエイトが高くなって、リスニング重視の姿勢が明らかとなりました。英語については「話す」も含めた4技能を測る民間検定試験も導入されることになっており、大学入試では英語重視の大きな流れがあるということが読み取れます。そしてこのことは大学入試のみならず、今後の社会全体において英語の重要度が高まっていくことになる可能性を示唆します。

終身雇用の廃止、通年採用の動き、フリーランスでの働きなど、働き方も今後は大きな変化が予想されます。今は入試とは無縁であり英語も無関係と考えている人でも、いつ中途採用のための活動をしなければならなくなるかはわかりません。その時に、ごく普通に、英語力を問われる時代がやってこないとは言い切れない流れになっていると感じられます。

